

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025川越

経済学部経済学科
小関フレッシュマンセミナー
・ソフォモアセミナー
八島蓮士 柳田悠翔 石橋快斗

1. リレー・フォー・ライフ (RFL) について

がんサバイバー(がん経験者)やそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧を目指す1年を通じて取り組むチャリティ活動。1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募ったことが始まり。「がん患者は24時間、がんに向き合っている」という想いを共有し支援するためである。ともに歩き、語らうことで「生きる勇気と希望を生み出したい」というこのイベントは、川越での開催は17回目。現在世界36カ国で活動、約1800カ所で開催され、年間寄付は約146億円にのぼる。

●使命 (Save Lives) と3つのテーマ

祝う (Celebrate)

がん告知を乗り越え、今を生きているサバイバーや家族などの支援者を讃え、祝福する。

しのぶ (Remember)

がんで旅立った愛する人をしのび追悼します。また病の痛みや悲しみと向き合っている人たちを敬っている。

立ち向かう (Fight Back)

がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会をつくっていく。

この3つのテーマに支えられ、使命であるSave Livesが成り立っている。

●寄付の使い道

- ・リレーイベント: リレー・フォー・ライフ活動の締め括りとして、ウォークイベントの開催。
- ・がんの悩み相談: 看護師・社会福祉士による、無料の電話相談。
- ・プロジェクト未来: がんの新しい治療法や新薬開発に向けた研究助成を支える。
- ・若手医師育成のための奨学金(マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞): がんを深く学びたい若手医師が、海外の専門施設で研修するための費用の一部を支える。
- ・がん検診受診率アップ: ポスターやパンフレットの作成など、がんについての知識の普及・啓発・がん検診の受診推進活動を実施。

◎ルミナリエセレモニー・エンプティータブル

- ・ルミナリエセレモニーはサバイバーを称え、ケアギバーを励まし、亡くなられた方を偲ぶため、想い想いのメッセージを灯すリレー・フォー・ライフの重要イベント。
- ・エンプティータブルは、がんによって旅立たれ、会場に来ることが出来なかった方を追悼するため、静かな音楽が流れる中、詩を朗読する。

○参加費

- 一般 : 1,000円
- サバイバー : 無料
- 高校生以下 : 無料

- 主催: 公益財団法人 日本対がん協会/リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会 共催: 川越市、城西大学
特別後援: アメリカ対がん協会 後援・協力: 厚生労働省 埼玉県 他多数

- 協賛企業・団体 埼玉医科大学総合医療センター、横田建設株式会社、日本医療科学大学、アトム薬局、埼玉医科大学国際医療センター、川木建設株式会社、日本コカ・コーラ株式会社、池袋病院、アイリス調剤薬局ほか





2.小関ゼミ生の活動

○会場設営

- ・1, 2年生19人が3つのグループに分かれて、会場の設営や撤収の作業を行なった。
- ・グッズ袋詰めやテント設営、手形フラッグ掲揚、受付応援、机椅子設置、音響設営、ルミナリエ設営、バルーンアーチ制作、講堂の整理、屋外の整理、ルミナリエ撤収、その他撤収 等の手伝いをした。

○イベントへの参加

- サバイバースウォークやルミナリエ点灯、ルミナリエセレモニーには参加し、サバイバーストークやエンプティテーブルを見学した。

○サバイバースウォーク

- チーム等でタスキを持ちながら会場を歩き続けることで、がんと闘っている人と一緒に挑むというイベント

○サバイバーストーク

- 3人のがん患者の人達がディスカッション形式で自分の体験したことを話し合うのを聞けるイベント

○ルミナリエ点灯

- がんを患っている人を励ますために、あるいは、がんで亡くなった人を偲ぶために、思い思いのメッセージを添えてキャンドルを灯すセレモニー

○エンプティテーブル

- 小さなテーブル : 時にたった1人で病と闘う患者のはかなさの象徴。
- 白いテーブルクロス : 命を懸けた闘いを支える医師、看護師、研究者たちの象徴。
- 花瓶の一輪のバラの花 : 乳がんに限らず、がんの治療法開発を支えている多くの人々の襟に飾られてきたリボンの象徴。
- 皿の上の一切れのレモン : この重大な病との苦しい闘いの象徴。
- 皿の上にちりばめられた塩 : 数え切れない患者の苦しみの涙と愛する人を失った家族や友人が流した涙の象徴。
- ふせられたグラス : 今日の日を共に祝うことができなかった人々への追悼。
- まわりのキャンドル : 私たちの心に灯る希望の光。サバイバーがくれる希望の光。リレーで集められた基金と、医療に携わる人々の努力によってもたらされるがん根絶への希望の光。



エンプティテーブル

3.取り組んでみての感想・学び

- ・普段聴く機会のないサバイバーの苦労や体験談を聞くことができ、2人に1人ががんに罹っていることを知ることができた。
- ・多くの人々がこのイベントに参加していた。夜通しでウォークをする人を見たことで、自らのがんに対しての意識が高まった。



手形フラッグ



集合写真

